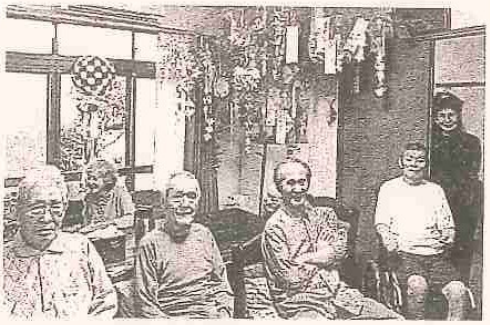
作品は利用者、スタッフの手で進化します



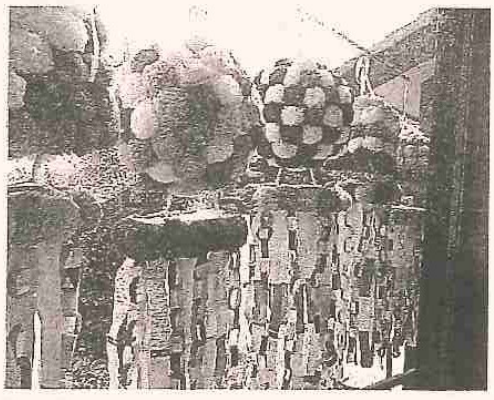
利用者の皆さんと一緒に、貼り絵等で大きな作品を作るようになって約一年がたちました。きっかけはお誕生会。その日に模造紙に“おめでとう”の文字と飾りつけをして１時間弱で出来上がり、壁に貼って会を盛り上げることが出来ました。利用者の「楽しかったね」と言う声に、「じゃあ１ヶ月に一点ずつ作って壁に貼ってみよう」と思いました。

昨年 11 月の作品は紅葉を題材に、半紙にきょうけち染めをして、もみじとイチョウの形に切って模造紙いっぱいに秋の山を表現しました。そこまでは良かったのですが、下のほうが少し寂しかったのでどんぐりを沢山置いてみようと思い、茶色のどんぐりと帽子に紫の紙を切っておきました。休み明けに作品を見てビックリ！あるスタッフから「あれ、毒キノコ？」。上下反対に貼られていて『きのこ』になっていました。

今年の５月の作品は黒目川沿いのさくらでした。４ 月のまどかコンサートでアルパの演奏曲の中に『川のながれのように』があったのでイメージしました。利用者の皆さんが、川と満開のさくらを絵の具で書きました。またも休み明けに見ると、川で魚釣りをしている人やたのしく遊んでいる人が沢山貼ってありました。「おおっ！」

その次は、５月から構想を練って６月末に作品をお披露目出来た『七夕飾り』です。利用者さんにお花紙の束４００個を花に開いてもらいました。皆さんは、話しに華を咲かせながら地道に手を動かしていました。組み立ては火傷の危険があるので自宅作業にしました。一番楽しい作業を独り占めして申し訳ないなと思いながらも、とても楽しかったです。結果は皆さんのご覧の通り超スゴイ飾り５個になりました。来年も使えるかな？た・の・し・み。

（多機能ホームまどか／山口洋子）



作品制作は、入職して 1 年半が経ったスタッフが中心になって取り組んでいます。小さい頃から物を作るのが好きで、G パンをリサイクルしたバッグは売り物のような出来栄えでした。得意分野を通してコミュニケーションがとれています。絵の具や色紙に触れる高齢者はどのくらいいいるのだろうと思います。製作しながら笑いあう声が聞こえてくると嬉しくなります。共同での作業は作品だけでなく利用者もスタッフも進化します。